

インタビュー

「にぎわいづくり」による地域の活性化



富士山静岡空港株式会社
代表取締役社長
出野 勉 さん

空港が開港して5年が経ちました。開港当初から「安全・安心」を第一として、積極的な運用に取り組んできました。また、それにあわせて、空港が地域活性化の中心施設になっていくことを目指し、空港周辺地域のにぎわいづくりにも取り組んできました。

にぎわいづくりは、私たちだけが仕掛けをしていくのではなく、周辺市町や住民、NPOなどの皆さんと一緒に取り組むことで相乗効果が出てきます。そしてその舞台が空港なのです。イベントなどに積極的に活用してもらい、訪れた方々が飛行機を見たり、買い物をしたり、また近くの温泉に行ってみたりと、空港を核としたイベントなどが周辺施設への誘客につながればと考えます。

今後、ターミナルビルの増改築により、さらににぎわいの場所が増えてくると思われます。

さまざまなにぎわいづくりによって、空港を訪れた皆さんに「こっぴでおもしろい」と感じてもらったり、住民やNPOなどの皆さんが「空港に行ったら何か時々やってみよう」と思ってもらえれば、それが地域の活性化につながっていきます。ぜひ空港を多くの方々に活用していただきたいと考えています。

静岡空港やその周辺には、可能性や魅力がいっぱいあります。富士山静岡空港周辺には、飛行機の離発着を間近で見ることができ、「石雲院展望デッキ」や「虫が飛び交う『豊かな自然』」など、魅力あふれる楽しいスポットがいっぱいあります。ぜひ、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

また、富士山静岡空港により、短時間で就航先などへの行き来が可能となり、お互いの地域や人の魅力に触れることが容易になりました。

市では、就航先への、お茶をはじめとする市の魅力のPR、産業振興や誘客を絡めた交流促進などに取り組んでいます。この結果、中国などから小中学生が修学旅行や海水浴での体験旅行などに訪れるようになり、これらも、空港から生まれた交流の一つです。

空港やその周辺には、たくさん可能性や魅力があふれています。富士山静岡空港の活用により、新たな出会いや発見が生まれ、そして新たな交流や活動のステージも広がっていくはずですよ。

～ 富士山静岡空港開港5周年記念 ～

6月4日には記念式典が開かれました。川勝県知事や西原市長も出席し節目を祝いました。



*式典では、空港のにぎわいづくりや交流拡大に貢献した団体などが表彰されました。市内では、次の皆さんが県知事から感謝状を贈られました。

- 富士山静岡空港を育てる女性の会(左から2番目)
- NPO法人榛原里やまの会(左から4番目)
- 遠州 高尾山 石雲院(右端)

5月31日、6月1日にはイベントが開催され約2万人の来場者で大いににぎわいました。



エアラインスタッフと記念撮影をする来場者



地元や就航先などのご当地キャラクターが大集合



▲タビチャフェでちょっと一息

空港ターミナルビル2階にあり、おいしいお茶とスイーツを味わいながら空港の情報が収集できます。

▼飛翔軒で地元の特産品をお買い物

石雲院展望デッキにあり、NPO法人榛原里やまの会が運営。農産物や工芸品などが販売されています。



▲航空資料館でパイロット気分を楽しむ

静岡理科大学坂口実験場内に小型飛行機や管制実習装置などが展示されています。

▼石雲院展望デッキで迫力ある飛行機を撮影

飛行機が間近に見え、天候が良ければ富士山も望める撮影スポットです。



にぎわいづくり



▲富士山静岡空港ウォークでリフレッシュ

空港周辺の豊かな自然を満喫しながら約12kmのコースを歩きます。家族向けショートコースもあります。

▼海水浴場を満喫

中国江蘇省江陰市などの小中学生が教育旅行で海水浴場を訪れ、スイカ割りなどを楽しみました。



▲石雲院で日本文化を体験

中国からの旅行者が石雲院を訪れ、座禅や生け花などの日本文化を体験しました。

▼まきのはら産業フェアで産業交流

市内の各種団体だけではなく、熊本県人吉市などからもブースを出展し特産品などをPRしています。

